

「プラごみ減らそう!」熱演

市民団体くにびきエコクラブ

オリジナル劇を通じて、プラスチックごみ削減を呼び掛けるメンバー



松江 80人鑑賞、環境考える

深刻な海洋汚染につながるプラスチックごみの排出を抑制する動きが世界的に進む中、市民環境団体「くにびきエコクラブ」(北垣幸久会長)が13日、ごみ削減を題材にした啓発劇を、松江市西生馬町の生馬公民

館で上演した。メンバーらは「プラごみが魚や鳥の寿命を縮めている」などのせりふで環境保全の大切さを訴えた。

(岸本久留人)

創作啓発劇「海亀の涙」上演

同クラブは2009年創設で、県東部の約40人が所属。地球温暖化防止など、街頭活動を行っている。

オリジナル劇「海亀の涙」は、スーパーを経営する一家が、プラごみが引き起こす環境汚染を知り、過剰包装やレジ袋の廃止を進め、脱プラごみを目指す店舗へ変わっていく物語。ごみがあふれるバリ島近海の海中を写した動画を劇中で流し、粉にした木からレジ袋を作る研究を進めることを提案する場面などを盛り込んだ。

劇は約80人が鑑賞。プラスチックのストローをよく使うという農業、松尾知樹さん(80)は「松江市下佐陀町は『妻と話し合い、処理について本気で考えたい』と話した。

脚本と演出を手掛けた同クラブ初代会長の山口信夫

さん(76)は「プラごみは海洋生物に深刻な影響を与えている。市民に実態を伝えたい」とし、北垣会長(72)は「マイバッグを持ち歩くなどできることを即実行し、習慣化してほしい」と呼び掛けた。

県によると、県内で処理されたプラごみは、2016年度が10万4865ト、17年度は15万3247トだった。